高等学校日语专业教材系列

6

王宣琦 总主编

日本語

王宣琦 主编

WUHAN UNIVERSITY PRESS
武汉大学出版社

高等学校日语专业教材系列

6

王宣琦 总主编

日本語

■ 王宣琦 主编

WUHAN UNIVERSITY PRESS
武汉大学出版社

图书在版编目(CIP)数据

日本语.6/王宣琦主编.—武汉：武汉大学出版社,2008.7
高等学校日语专业教材系列/王宣琦总主编
ISBN 978-7-307-06401-0

Ⅰ.日… Ⅱ.王… Ⅲ.日语—高等学校—教材 Ⅳ.H36

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2008)第 099286 号

责任编辑:王春阁 叶玲利 责任校对:程小宜 版式设计:詹锦玲

出版发行:**武汉大学出版社** (430072 武昌 珞珈山)
(电子邮件:wdp4@whu.edu.cn 网址:www.wdp.com.cn)
印刷:湖北恒泰印务有限公司
开本:720×1000 1/16 印张:27.625 字数:539 千字
版次:2008 年 7 月第 1 版 2008 年 7 月第 1 次印刷
ISBN 978-7-307-06401-0/H·574 定价:32.00 元

版权所有,不得翻印;凡购我社的图书,如有缺页、倒页、脱页等质量问题,请与当地图书销售部门联系调换。

前　言

中日两国民间的交流源远流长，特别是近年来，随着中国经济的快速增长，两国间在经济、贸易、科技、学术等诸方面的交往不断加速。国内的日语学习持续升温，经久不衰，新开设日语专业的学校更是有增无减。毋庸置疑，语言是一个民族文化的核心部分，欲了解一个国家亦需要从语言开始。尽管本教材的使用对象为日语专业的学生，但我们依然衷心地希望有更多的青年朋友通过这套教材的出版，加入到日语学习的行列之中，并运用你们的智慧，以所学到的日语知识，从更深层次去认识日本，解读日本。

本套教材的编写集中了武汉地区多所大学日语专业教师的力量，其中包括武汉大学、华中师范大学、中南财经政法大学及中南民族大学等。教材的编写方针是力求达到专业化、精品化、多功能化，并力图体现一定的地方特色。《日本語》第六册是在一至五册教材的基础上编写的。

基于目前国内大学日语专业本科三年级下学期课时安排的实际情况，《日本語》第六册共编写了九课。既可供日语专业高年级学生使用，又适合有志于提高日语水平的非专业学习者使用。本教材的课文及阅读课文选材新颖，内容涉及面广，每篇文章都具有极强的可读性，使学生可以在学习日语的同时，更多地了解日本的社会文化、人文背景，以加深对日本的了解。编者根据多年的教学经验，对语言学习中必不可少的惯用句型、词汇做了独到的解释，特别是对日语中常见的类意表达也做了一定的比较，可以帮助学习者更深地理解、运用日语。全书每课在对日语词汇、句型、惯用句进行解释的同时，还列举了大量生动实用的例句。可以说，这些例句是本书的特色，也是编者倾注了极大心血的部分。

众所周知，外语的学习离不开长久的训练。基于这一特点，本教材每课课后都安排了相当分量的练习习题。大量的习题（如词汇、惯用句型、词义辨析及阅读理解等）可与日语能力考试的1级、2级试题挂钩，学习者在完成这些习题之后，无疑会极大地提高日语实用能力。同时，每课的练习还使用了各种不同形式的题型（如改错、惯用句选择、拟声拟态词选择、汉日互译等），这些练习不仅能使你全面地提升日语的功力，而且能作为日语能力考试，研究生入学考试的重要练习手段。我们期望读者在学完本教材后，使自己的日语水平有一个质

的提高。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

目　次

第一課　大阪学…… 1
注釈…… 8
新出単語 …… 11
言葉使いの説明と用例 …… 20
一、丸出し　［名詞・他サ］ …… 20
二、きっちり　［副詞］ …… 21
三、どさっと　［副詞・擬態語］ …… 21
四、じみる　［接尾辞］ …… 22
五、抜ける　［自一］ …… 22
六、やたら（に）　［形ダ・副詞］ …… 24
七、おおむね　［名詞・副詞］ …… 25
八、ぼちぼち　［副詞］ …… 25
九、いち早く　［副詞］ …… 26
十、…ばかりの　［慣用文型］ …… 26
十一、かけ　［接尾辞］ …… 27
十二、…以下　［文語の慣用文型］ …… 27
十三、とっさに　［副詞］ …… 28
十四、…を問わす　［慣用文型］ …… 28
閲読文章　東京という町の素顔 …… 29
補充単語 …… 32
練習問題 …… 37

第二課 ‥日本サッカーは世界に通じるのか …… 49
注釈 …… 53
新出単語 …… 54
言葉使いの説明と用例 …… 58
一、あがる　［接尾辞］ …… 58

二、一旦　［副詞］ …… 59
三、にくい　［接尾辞］ …… 59
四、とても…ない　［慣用文型］ …… 60
五、突く　［他五］ …… 60
六、…にしても　［慣用文型］ …… 62
七、おのずと　［副詞］ …… 63
八、つもり　［形式名詞］ …… 64
九、毛頭ない　［慣用句］ …… 65
十、…ことなく　［慣用文型］ …… 66
十一、だけ　［副助詞］ …… 66
十二、…てはじめて　［慣用文型］ …… 68
十三、きく（利く・効く）　［自・他五］ …… 68
閲読文章　日本サッカーの伝道師としての私 …… 69
補充単語 …… 74
練習問題 …… 80

第三課　「お受験」は役に立つか …… 93
注釈 …… 97
新出単語 …… 98
言葉使いの説明と用例 …… 104
一、補助動詞「…ていく」と「…てくる」のまとめ …… 104
二、…かのように　［慣用文型］ …… 106
三、余計　［名詞・形ダ・副詞］ …… 107
四、ただし　［接続詞］ …… 107
五、じっくり　［副詞・擬態語］ …… 108
六、的　［接尾辞］ …… 109
七、がっしり　［副詞・擬態語］ …… 109
八、いずれにしても　［連語］ …… 110
九、…にきまっている　［慣用文型］ …… 110
十、ましてや　［副詞］ …… 111
十一、まんべんなく　［副詞］ …… 111
十二、こつこつ　［副詞・擬音・態語］ …… 112
十三、かつ　［副詞・接続詞］ …… 112
十四、所詮　［副詞］ …… 113
十五、潰しがきく　［慣用句］ …… 114

閲読文章　教育現場における「いじめ」の事件史 …… 114
補充単語…… 118
練習問題…… 122

第四課　現代詩四編…… 133
注釈…… 138
新出単語…… 138
作品鑑賞のポイント…… 141
日本詩について…… 149
閲読文章　ダイヤモンドダスト…… 154
補充単語…… 158
練習問題…… 164

第五課　「東京」と「故郷」に揺れる日本人 …… 176
注釈…… 180
新出単語…… 182
言葉使いの説明と用例…… 186
一、掲げる　［他一］ …… 186
二、…とされる　［慣用文型］ …… 187
三、走る　［自五］ …… 187
四、しかも　［接続詞］ …… 189
五、くまなく　［副詞］ …… 189
六、「人」の読み …… 190
七、見事　［形ダ］ …… 192
八、とんとん　［副詞・擬音・態語］ …… 192
九、切る　［他五］ …… 193
十、高が知れる　［慣用句］ …… 195
十一、接尾辞「料・代・賃・費」の使い分け …… 195
閲読文章　若者の流出に悩む地方都市…… 196
補充単語…… 200
練習問題…… 204

第六課　日本人の美意識…… 216
注釈…… 223
新出単語…… 227

言葉使いの説明と用例…… 235
一、気（け）　［名詞・接頭辞・接尾辞］ …… 235
二、当たる　［自五］ …… 235
三、むしろ　［副詞］ …… 237
四、さしあたり　［副詞］ …… 238
五、…うえで（の）　［慣用文型］ …… 238
六、望ましい　［形容詞］ …… 239
七、ことのほか（に）　［副詞］ …… 239
八、しめる　［文語使役の助動詞］ …… 240
九、冴える　［自一］ …… 240
十、「うる」と「える」　［接尾辞］ …… 241
十一、いわば　［副詞］ …… 241
十二、疎ましい　［形容詞］ …… 242
十三、断る　［他五］ …… 242
十四、束の間　［名詞］ …… 243
十五、とどまる　［自五］ …… 243
閲読文章　アウラの追放…… 244
補充単語…… 247
練習問題…… 251

第七課　幸福の条件（三題） …… 261
注釈…… 268
新出単語…… 268
言葉使いの説明と用例…… 277
一、かける　［接尾辞］ …… 277
二、そそくさ　［副詞・自サ］ …… 278
三、ごとし　［文語の助動詞］ …… 278
四、追う　［他五］ …… 279
五、限り　［形式名詞］ …… 280
六、転かる　［自五］ …… 281
七、目をとめる　［慣用句］ …… 282
八、気が晴れる　［慣用句］ …… 283
九、被る　［他五］ …… 283
十、きる　［接尾辞］ …… 284
十一、逃れる　［自一］ …… 284

十二、広がる　［自五］ …… 285
閲読文章　涼しい脳味噌 …… 286
補充単語 …… 288
練習問題 …… 290

第八課　不機嫌な果実 …… 302
注釈 …… 311
新出単語 …… 311
言葉使いの説明と用例 …… 320
一、しっくり　［副詞・擬態語］ …… 320
二、乗る　［自五］ …… 320
三、ときたら　［慣用文型］ …… 321
四、…とて　［慣用文型］ …… 322
五、分　［名詞・形ダ］ …… 322
六、ともかく　［副詞］ …… 323
七、ぎくしゃく　［副詞・自サ］ …… 324
八、始末　［名詞・自他サ・形ダ］ …… 324
九、とうてい…ない　［慣用文型］ …… 325
十、かねる　［接尾辞］ …… 326
十一、…には…が　［慣用文型］ …… 326
十二、構える　［他・自一］ …… 327
十三、…にかけては　［慣用文型］ …… 328
十四、控える　［自・他一］ …… 328
十五、通る　［自五］ …… 330
閲読文章　ヤンコーの悲哀 …… 332
補充単語 …… 334
練習問題 …… 339

第九課　不機嫌な果実（続） …… 351
注釈 …… 362
新出単語 …… 363
言葉使いの説明と用例 …… 375
一、ごろごろ　［副詞・擬音・態語］ …… 375
二、いっそ　［副詞］ …… 377
三、まっぴら　［副詞］ …… 377

四、のける　［補助動詞］ …… 377
五、もやもや　［副詞・自サ］ …… 378
六、よりによって　［連語］ …… 379
七、むっと　［副詞・擬態語］ …… 379
八、おっとり　［擬態語・自サ］ …… 380
九、はてる　［接尾辞］ …… 380
十、のっぺり　［副詞・擬態語］ …… 380
十一、せいせい　［副・自サ］ …… 381
十二、すんなり　［副詞・擬態語］ …… 381
十三、…たら　［副助詞］ …… 382
十四、ひっきりなし　［形ダ］ …… 383
十五、かっきり　［副詞］ …… 383
十六、さりげなく　［副詞］ …… 384
閲読文章　「悪魔」の命名 …… 384
補充単語 …… 386
練習問題 …… 390

付録 1 …… 403
日本語第六冊参考解答 …… 403

付録 2 …… 424
世界の国名・首都 …… 424

参考資料 …… 430

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

第一課

大阪学

おおたにこういち
大谷晃一

店内でも、とにかく時間がない

店に入ってみよう。以下は女子学生たちの観察である。一人は大阪のど真ん中の店でアルバイトをしているが、よく道を尋ねる人がやってくる。大阪弁丸出しの、とくに中年の男女は「ねえちゃん、〇〇はどうやって行くねん」と突然に大声で尋ねる。教えていると最後まで聞かずに、礼も言わずにトットと行ってしまう。遠くから来る旅行者は、言葉は標準語その他いろいろだが、「すいません」と言いながら入って来て、こちらの答えを最後まできっちりと聞き、「有り難う」と礼も言って行く。大阪人の特徴は、とにかく時間がないのか、ひどく急いでいる。話しかけ方はいきなりその辺りの顔見知りのようである。

一人はコンビニエンス・ストアでアルバイトをしている。客によく「おねえちゃん、〇〇はどこにあるの」と商品の所在を聞かれる。すぐに手が離せないので、「少々お待ちください」というと、「ええわ、自分で探すわ」と行ってしまう。もう一人もコンビニエンス・ストアで働いている。「ねえちゃん、ちょっと負けて」とよく言われて困ってしまう。商品はバーコードで精算するが、ドサッと商品を台に置いた瞬間、「幾らや」と聞かれることがたびたびあ

る。精算が待てなくて、全くせわしない。

大衆食堂でよく見かける光景がある。先の人が食事を終わると、まだテーブルの上が散らかっていてもおかまいなしに、次の人か一目散に席につく。自分たちで皿やコップを隅に片づけて使用後のおしぼりでテーブルの上をふき、ウエイトレスを待ち構える。来ないと、大声で呼ぶ。東京では入り口に列をつくり、テーブルがちゃんと片づけていないと、座らない。ウエイトレスも片つけないと客を座らせない。

エスカレーターは歩くものか

石川県から大学へ入って大阪へ来た女子学生は、「大阪でエスカレーターや動く歩道に乗って人が動くので怖さを感じた」という。福岡県から来た学生は、「大阪でエスカレーターで歩いたり走ったりするのにびっくりした」という。彼女たちには、大阪人はどこか攻撃的で、一面でそんな場所でも所帯じみているように見えると観察している。日本中のエスカレーターの速度は一分に30メートルと決まっている。が、大阪人は遅いと思う。東京ティズニーランドで、係りの女性に「エスカレーターで歩かないでください。しゃべり方からすると大阪の人ではないですか」といわれたそうだ。

近鉄の難波駅では朝のラッシュ時に上り二基のエスカレーターを急行と普通にした。行って見ると、急行に列ができ、しかも全員が歩いている。普通の方が比較的空いている。上に上がった時点で1.5メートル、つまり二、三歩の差しかない。

エスカレーターで歩いたり走ったりする人が、大阪は日本一多い。論文「地域文化特性と運動行動」によれば、エスカレーターで多く歩く、ときに歩くを合わせると大阪は35%だが、東京は25.2%で、一番低いのは鹿児島で16.2%である。大阪の気せわしさ、せがせか度が分かる。

阪急梅田駅やなんばCITYの動く歩道には、「お急ぎの方のため左側をおあけ願います」との表示やアナウンスをしている。だが、きちんと左側を空けすてんでんばらばらである。急く人はその間を左や右にすり抜けて行く。じっと立っている人を「この人は何んで止まってんのん」という目で見て行く。東京

での学生の体験によれば、動く歩道で歩き出すと、「この人、何を急いでいるのかしら」とじろじろ見られた。

エレベーターで「閉」をやたらに押す人がいる。中之島の朝日新聞社ビルのエレベーターは「閉」がなく、仕方ないので階数の方を何度も押す人を見かける。

乱調！駅の行列

日常の電車の駅のプラットホームでの観察と考察をしてみよう。

乗車を待って、客が行列をする。おおむねどこでも三列乗車であって、前にその表示が出ている。ところが、大阪で整然と三列を作っている光景は珍しい。実にいい加減な列である。三人並ぶところに一人であったり、二人であったり、前の人との間に空きがあったり、横にはみ出ていたりして、始めから乱れている。まずは、そういうルーズさがある。小学校で列を作るように、きっちり整列をすることがいやなのか。または、指示通りに並ぶのに照れがあるのか。あるいは、均整のとれた形に美を感じないのか。列を乱すのを注意する人は、ますいない。注意する方こそ、野暮でありかわり者である。

地下鉄の駅では「前前駅→前駅→当駅」と表示する。この次の電車がどこに来ているかを教える位置表示装置は、大阪地下鉄がいち早く昭和24年（1949）から始めた。東京などがほちほち見習うことになる。バスでもどの系統のバスがいまどこを走っているかを刻々と示す。終点まで何分かかるかの表示も出る。その数字が絶えず変わる。路線の各所に道路事情の感知器を設置して車の流れをとらえてコンピューターで計算している。筆者が見たところでは東京にも京都にもない。こんなに工夫と金を使っても、地下鉄やバスが早く来るわけではない。みな、待つ人のいらいらを抑えるためだけである。

そこへ、電車が入って来る。すると、とにかくも作っていた列が必ず崩れてしまう。ドアを取り巻くように半円形になる。列は実際上ほとんど用をなさなかった。乗車する客はドアの両側に分かれる。降車が終わらない内に、両側から乗り込もうとする。それぞれの先頭の人間の性格によって勝敗がつく。強引に押し込んだ側は、次々に入ってしまう。一方で、先頭の人が「まず降車」

のルールを思ってためらうと、その後ろにつく人々はなかなか入れない。つまり、強気が勝ち、弱気が負ける。その道徳正しい先頭の人は、後ろの人から非難の目を向けられる。やはり「地域文化特性と運動行動」の調べでは、降り終わるのを待たずに大阪は平均3.2秒前に乗り込む。東京は1.3秒前である。

以上が大阪付近の駅での日常の風景だが、大阪人には公共の規律というものがない。あるいはそれが希薄ということになる。

大阪人とは、大阪で生まれ育った人だけではない。よその人でも、大阪ではそうなってしまう。汚い場所だとごみを捨てやすいのと同じである。東京から転勤して来た友人が大阪の駅の様子を口をきわめて非難したが、三ヶ月もすると彼も並ばなくなった。ただし、大阪の千里ニュータウンの地下鉄や阪急の駅、それに泉北ニュータウンの泉北高速の駅は行列が他よりは比較的に整然としていて、少なくとも梅田や難波よりはよいとの学生の調査報告がある。これは、それらニュータウンには比較的新しくよそから来た人が多い雰囲気があるのかも知れない。

東京人から見た不作法さ

東京の駅はどうか。筆者が池袋の東武線のプラットホームで体験したことである。

実に整然とした三列ができている。これだけでも感心していた。筆者はその先頭に立っている。ところが、その横へさっと30代の女性が来て並んだのである。先頭が四人になった。筆者は、いくら何でもひどいと思った。大阪でもそれはない。「ここは先頭ですよ。」と小さい声で言った。すると、その人は「何いってんのよ、この田舎者が」というような目で私を見返し、「次の電車です」と答えた。ここは始発駅だった。それでも、まだ私は疑っていた。少なくとも大阪では有り得ないことであった。その内に、その人の後に続く列が出来てきた。つまり、六列になってしまった。

まず先の電車が入って来た。だが、列は少しも崩れなかった。ドアが開くと、最初からの三列が整然と乗車して行く。後から出来た三列は少しも動かない。それは、息をのむばかりの見事さであった。車内から見ると、新しい三列

がちゃんと並んでいる。

東京の駅がすべてこういうわけではない。だが、全体から見て大阪の方が行儀が悪いのは明らかである。東と西は違う。東京から大阪へ来た人は、そんな大阪がひどく気に障るらしい。水上滝太郎は小説「大阪」「大阪の宿」の中で、「無秩序に無道徳に発展する大阪」とこき下ろし、谷崎潤一郎は随筆「阪神見聞録」に「大阪人の不作法さ、垢抜けのなさ」を指摘した。

どう座ろうとお客の勝手

いよいよ車内に入る。電車のロングシートは、三人掛け、五人掛け、七人掛けなどがある。そもそも、電車の座席の幅は、鉄道営業法の普通鉄道構造規則で旅客一人につき400ミリ以上とされる。昭和54年（1979）には一人430ミリを原則とするとJIS規格化されている。何人掛けかは決まっているのである。ところが、透き間をたっぷり空けたり、横に荷物を置いたり、両足を広げてでんと構えたりして、定員通りに腰を掛けていない。

東京では、早くからJRも私鉄も客に定員通りに厳格に座ってもらおうとして苦労を重ねている。一人分ずつ模様や色分けをつけたり、間に板を立てたり、凸凹をつけたり、後ろに何人掛けと表示をしたり。欧米ではこれが当然のことで、ロンドンの地下鉄は一人ずつ肘掛けがついているし、ニューヨークでは座席が凹んでいる。

ところが、大阪ではようやくJR西日本、地下鉄、阪神電鉄などでぼつぼつ区分けの表示をやるようになった。しかし、まだまだ会社側では、「座席を指定するつもりはおまへん。お客の勝手でっせ」と言うて様子を見ている。自動改札機も動く歩道も、昭和42年（1967）に大阪の阪急電鉄が日本で真っ先に取り付けた。こんな能率的な設備には熱心なのに、座席の区分には大阪では腰が重い。乗客側もまた、折角の座席の区分を多くは無視している、と学生が報告を寄せている。そういう風にきっちりと決められることには、大阪人は不得手なのである。これは文化風土の違いで、それだけ東京は住みにくいともいえるが、裏を返せば大阪はルーズということになる。

東京では、シルバー・シートの前で老人が座っている若者に「立ち給え」

という光景かまだあるそうだが、近ごろの大阪でそれを筆者はまだ見聞したことがない。シルバー・シートという表示をだれもか無視して当然と思っている。

いよいよ、目的の駅が近ついた。大阪では電車やバスが止まる前から多くの人が席を立ち、ドアのところへ集まる。一番先に出たがる。ゆっくりした人が前にいると、「早くせえ、お前のために遅れるやないか」というような目で見ている。

なぜ大阪はこうなったのか

こうして大阪の現象をつかむだけでは、大阪学にならない。その原因や由来は何か、について考えて行かねばならない。これをファクター（起因）と呼ぶ。

さて、これをどこに求めるか。大きくいえば、二つある。一つは大阪の風土である。その位置や地勢や気候とその移り変わりなどが、土地や人間を作る。もう一つは、歴史である。それも、政治、経済、文化、芸術、文学などあらゆる歴史がかかわる。先人たちが長い間に培い育てた歴史によって、そこに住む人々の意識や行動ができて来る。

現代の大阪は、豊臣秀吉の政策に始まる。日本全国の米を始め主な商品の市場を大阪に置いた。若いころに針を売り歩いた彼は商業の重要さを知っていたのである。大阪の商業は特権を与えられ、日本の経済の中心になった。徳川幕府はこれを引き継く。ただし、政治と経済を切り離し、政治は江戸、経済は大阪と分けた。

幕府は大阪を直轄地である天領とし、特別な経済特区にした。そこは封建社会の中の資本主義社会である。当然ながら、それは大阪の持つ地理的な条件から来ている。大名は蔵屋敷を置き、全国の物産の七割は海運で大阪に集まり、天下の台所といわれる。ただ、江戸時代の後半になるに従って、消費人口の多い江戸の経済的地位が高まり、相対的に大阪の繁栄にやや陰りか見えて来る。

大阪は町人の町

大阪には大阪城代が在勤し、東西両町奉行所があったが、武士は全部を合わせても五百人を超える程度であった。大阪の人口は最高の明和2年（1765）に

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com